

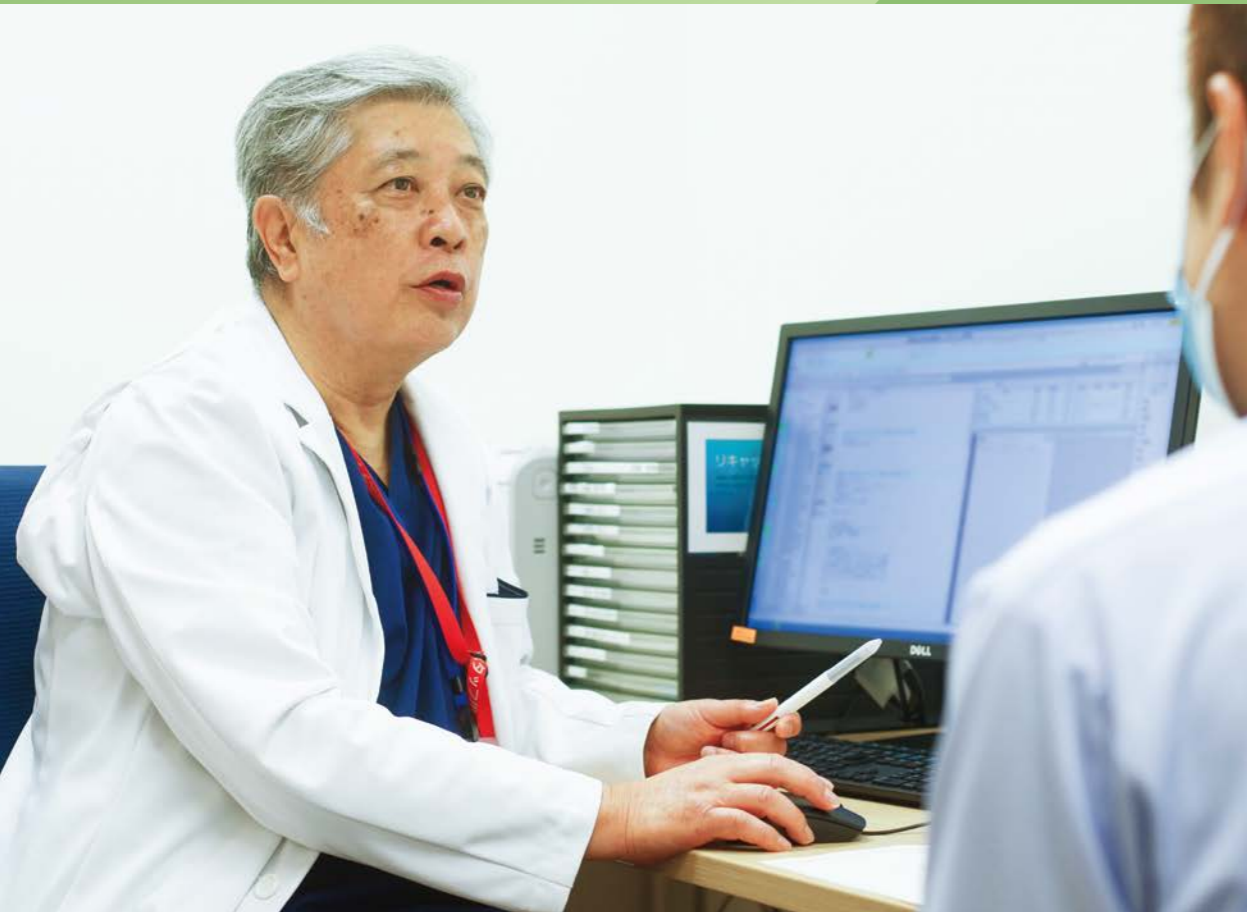
MESSAGE

## 病院長のご挨拶

CONTENTS [目次]

・総合診療科とリハビリテーション科 - 患者さんに向き合って -

INFORMATION [インフォメーション]  
新任医師のご紹介



表紙 | すずかけセントラル病院 総合診療科/リハビリテーション科 医師 坂元 隆一

特集

SPECIAL ISSUE

総合診療科とリハビリテーション科 - 患者さんに向き合って -

### 新任医師のご紹介

脳神経外科 医師 山本 祐太郎 YAMAMOTO YUTARO

2022年10月より脳神経外科、脊椎センターを担当しております。

これまでがん、脳卒中、てんかん、脊椎脊髄疾患など様々な診療を経験し、広い守備範囲で神経症状を一括して診ることができます。

この経験を活かし、地域の皆様のお役に立ちたいと思います。お悩みのある方はお気軽にご相談ください。



**休日当番医のお知らせ**

1/8(日)は  
休日当番医  
となっています。  
詳細は新聞等  
ご確認ください。

### バス停のご案内

当院へバスでお越しの方は、最寄りの「すずかけセントラル病院」または「田尻橋北」のバス停からが便利です。病院へは、歩行者用の出入り口をご利用ください。



### バス時刻表

#### 「小沢渡」方面行き

1 すずかけセントラル病院 ⇒ 柏原西		2 田尻橋北 ⇒ 柏原西	
月～金	土・日祝	月～金	土・日祝
6時	[50]	6時	[58]
7時		7時	[31] [46] [42]
8時	[26]	8時	[24] † [21]
9時	[08] *	9時	[06] † * [04] *
10時	[08] *	10時	[06] † * [05] *
11時	[08] *	11時	[06] † * [05] *
12時	[08] *	12時	[06] † * [05] *
13時	[08] *	13時	[06] † * [05] *
14時		14時	[05] * [05] *
15時		15時	[05] * [05] *
16時		16時	[05] * [47] [05] * [52]
17時		17時	[23] [53] [52]
18時		18時	[33] [51]

#### 「浜松駅」方面行き

1 すずかけセントラル病院 ⇒ 浜松駅		2 田尻橋北 ⇒ 浜松駅	
月～金	土・日祝	月～金	土・日祝
6時		6時	[11] [56] [27]
7時		7時	[26] [07] [39]
8時		8時	[09] [29] [19] [58]
9時		9時	[05] [53] [53]
10時	[46]	10時	[48] [46]
11時	[46]	11時	[48] [46]
12時	[46]	12時	[48] [46]
13時	[46]	13時	[48] [46]
14時	[46]	14時	[48] [46]
15時	[46]	15時	[48] [46]
16時		16時	[27] [56]
17時		17時	[03] [34]
18時		18時	[36] [34]

す：すずかけセントラル病院経由 水：浜松市総合水泳場行  
[ ]内は超低床ノンステップ「オムニバス」運行予定(車両整備等により「オムニバス」で運行できない場合があります。)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。令和になって早5年目の新春を迎えました。コロナや物価高など気持ちが塞ぐ話題も多くある中、新しい年を迎えるたびに一年の平穏を願って手を合わせる日本の文化風習は、本当に素晴らしいと思います。今年一年が皆様にとって良い年になりますように。





# 院長の挨拶

MESSAGE

新年あけましておめでとう御座います。

今年の干支は「兎」ですが、今年こそは「脱兎」のごとくコロナの世界から抜け出して欲しいと願わざるをえません。昨年の第7波、オミクロン株による蔓延を迎え、コロナ感染予防対策の制限緩和が行われ、医療施設への負担の軽減と共に、社会においてはコロナとの共生「ウイズ・コロナ」の時代が始まっています。緩和が図られる中で、コロナ感染者の届け出義務も変更されたため、感染の実態が見えにくくなっており、それだけに今まで以上の感染予防に注意を払っていく必要があります。コロナ感染が始まってからの3年の間に、多くの病院、施設においてクラスターが発生し、多大な業務の支障に陥りました。当院は、幸いにしてクラスターの発生に至ることはありませんでした。しかし、今年はさらに引き締めて感染予防対策にあたり、当院をご利用の皆様および職員の安全を図っていきたくと考えております。

昨年、院内保育室と歯科診療室の移転および新たなMRI装置の導入に伴う小規模な院内改修工事が行われました。現在、診療と健診センターでのドック検査に2台のMRIが稼働しております。MRI検査は、身体各臓器の画像検査としては、簡便、安全に、しかも多くの情報を画像として見る事ができる最も優れた検査です。病院における通常の診断治療検査としてだけでなく、健診ドックにてがんを始めとする病気の早期発見治療に結び付ける検査としてその価値が広がっています。当院においては、脳神経、乳房、肺、肝臓を始めとする腹部臓器のドックにてMRI検査を行っておりますので、皆様のご利用をお待ちしております。

昨年よりリハビリ科にリハビリ専門医・坂元先生が、脳神経外科・脊髄センターに山本先生が新たに診療スタッフとして加わりました。当院の医療は二つ軸でおこなわれております。一つは、総合病院と同じように、外来、健診センタードックそして一般病棟を中心とした医療です。白内障、前立腺、脊椎ヘルニア、整形外科などの加齢・高齢者疾患を主に治療が行われています。もう一つは、回復期リハビリ病棟、包括支援病棟、高度障害病棟そして療養病棟など、各々、扱う患者、治療が異なる医療を、地域連携室を窓口として行われています。これらの二つの医療の軸で、病気の急性期、回復期そして慢性期などの各段階に応じた医療を受けることが可能となっています。今後さらに進む高齢化社会において、安心と安らぎを提供できる「すずかけの木の木陰」のように皆様の地域に根ざしていきたいと考えております。本年も皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

すずかけセントラル病院 病院長 横山 徹夫

## 特集

SPECIAL ISSUE

# 総合診療科とリハビリテーション科ー患者さんに向き合ってー

筆者

すずかけセントラル病院  
総合診療科／  
リハビリテーション科  
医師 坂元 隆一

### 外来での取り組み

総合診療科外来では、四診を合わせて分析し、総合的に判断した上で漢方処方を決めています。次回予約を決定する際「その時までに漢方薬で症状が改善すれば、受診しなくてよい」ことをお伝えし、実際に症状がよくなり、再診せずに済む方もいらっしゃいます。

また、コロナウイルス感染後の後遺症として多くみられる全身倦怠感を主訴として受診される患者さんも多く、その方々には、補中益気湯を代表とする補気剤を処方して奏功した例が多数あります。また、コロナウイルス感染と紛らわしい症状（発熱、全身倦怠感、

などを見ます。肌や顔などの部位には様々な変調が現れるため、肌の色つや、むくみの有無、のぼせがみられるかどうかも観察し、その人の証を判断します。

また、東洋医学独特の舌の形態を観察する舌診も、望診に含まれます。

### ◆ 問診（ぶんしん）

問診は、文字どおり患者さんの声や呼吸、咳の音を聞く診察法ですが、その他、体や口の発するにおいを嗅いだりすることも含まれます。声が弱くかすれて聞き取りづらかったり、途切れがちだったりするときは、

気が不足していると考えられます。体臭や口臭が発生する時も体の様々な器官が関係しています。口臭が強い場合、胃や口の中の変調が疑われます。

例えば、胃に未消化の食べ物が残っていると酸っぱいにおいがし、歯周病や虫歯があると腐ったようなにおいがします。

### ◆ 問診（もんしん）

問診では、過去の病歴と現在の自覚症状を確認します。後者に関する重要な診断ポイントがいくつかあります。「熱」「汗」「痛み」「飲食」「口渇」「大小便」「睡眠」そして女性の場合は「月経」などです。

### ◆ 切診（せつしん）

切診には、脈を診る脈診とお腹の様子を診る腹診があります。日本の漢方医学では、急性期は脈診を、慢性期は腹診を重視します。漢方薬の処方に役立つのは「腹診」です。一般的に、お腹が膨れていて軽く押すだけで痛みが増す場合は実証で、体が熱を帯びています。反対にお腹を押すと痛みが和らぐときは虚証で、体が冷えています。また、腹診で指先に硬い塊が触れるときは「瘀血」を疑います。塊があっても押すと消えるのは、体の中で気が滞っている状態（気滞）です。

四診で得た証は、あくまでも「診察を受けた時点の状態」であるため、治療回数や季節、年齢、生活習慣が変わることで変化していくものです。したがって、初診だけでなく2回目以降の診察でも四診を行い、新しい証を決めて治療方針を変更することが大切です。



テーション科勤務時には、高知大学、福井大学、藤田医科大学、一宮西病院、一宮市立市民病院などで漢方治療の講演等を行いながら漢方薬の有用性を確認するなど、医師としてのキャリアを積んでまいりました。

日本では、「西洋医学の基礎を身に付けた医師が、漢方薬を処方する」という独自の医療システムがあります。西洋医学と東洋医学の良い部分を生かし治療を行えることは、患者さんにとって大きなメリットといえます。私の外来では漢方薬を処方することが多いため、患者さんの全体的様子を把握する目的で、四診と呼ばれる診察方法を用い、舌を観察したり、お腹や脈なども直接触れてチェックします。そして、患者さんには自覚症状や経過、体質や生活習慣などを、診察時にありのまま伝えていただくようお願いしています。

また、東洋医学よりも西洋医学の方が向いている病気や、重篤な疾患が隠れている場合もあります。そのため、初診では東洋医学が適応する疾患かどうかも含め勘案します。

### 診察方法

四診（望診、聞診、問診、切診）では、患者さんのカラダとココロの状態についてできるだけ多くの情報を集めます。

### ◆ 望診（ぼうしん）

望診とは、患者さんの症状を目で見えて観察することです。体格、体型、姿勢のほか、歩き方などの動作も重要な情報です。患者さんが診察室に入った時からその様子を見て、座った時の姿勢や話するときの体の動きを確認し、併せて手足の震えや顔面の痙攣がないかなども観察します。患者さんと対面したら、肌の状態や顔色

### 病院のために

外来では看護師、医師事務やリハビリスタッフ、地域連携室などの協力を、病棟での入院患者さんの診察時には、病棟看護師、薬剤師、検査技師、介護職員、透析室スタッフなどの協力を得ながら、各部署がひとつとなって治療に取り組む「チーム医療」を実践しています。

また、他科の医師との「コミュニケーション」を図ることで、例えば問診で歯周病や虫歯などが疑われる場合など、医師同士の連携が患者さんにとって最善の治療のご提供に繋がると考えています。今後も、患者さんのために、すずかけセントラル病院の益々の発展のために、少しでも力（ちから）になれればと思っております。

体調不良などでお悩みの方がいらっしゃいましたら、是非一度ご相談ください。

